

(5) 設備の状況

ア 高齢者等のための設備

居住世帯のある住宅数を高齢者等のための設備状況別にみると、「高齢者等のための設備がある住宅数」は3,908,300戸で、その割合は54.0%となっている。平成30年と比較すると、「高齢者等のための設備がある住宅数」は751,100戸増加していて、その割合は7.6ポイント上昇している。

また、「高齢者（65歳以上の世帯員）がいる主世帯が居住する住宅数」のうち「高齢者等のための設備がある住宅数」は1,507,900戸で、その割合は64.6%となっている。平成30年と比較すると、「高齢者等のための設備がある住宅数」は183,300戸増加していて、その割合は5.0ポイント上昇している。高齢者等のための設備の項目をみると、「手すりがある」が52.1%で最も高く、次いで「またぎやすい高さの浴槽」が29.3%となっている。

(表7、図7)

表7 高齢者等のための設備状況別住宅数（総数及び高齢者がいる主世帯が居住する住宅数）

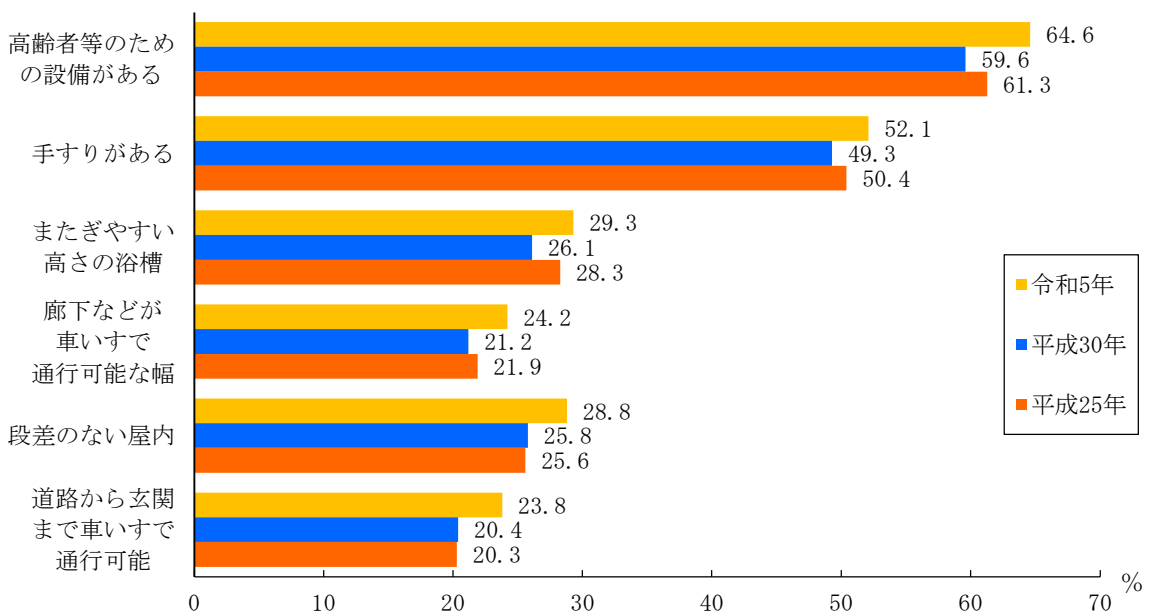
(単位：戸、%)														
高齢者等のための 設備状況									全国					
	平成25年				平成30年				令和5年				令和5年	
	住宅数	設備がある割合	高齢者がいる主世帯が居住する住宅数	設備がある割合	住宅数	設備がある割合	高齢者がいる主世帯が居住する住宅数	設備がある割合	住宅数	設備がある割合	高齢者がいる主世帯が居住する住宅数	設備がある割合	住宅数	設備がある割合
総数	6,472,600	—	2,047,700	—	6,805,500	—	2,223,800	—	7,235,400	—	2,335,300	—	55,665,000	—
高齢者等のための設備がある	3,042,300	47.0	1,255,700	61.3	3,157,200	46.4	1,324,600	59.6	3,908,300	54.0	1,507,900	64.6	31,154,500	56.0
手すりがある	2,255,600	34.8	1,032,000	50.4	2,369,600	34.8	1,096,700	49.3	2,675,900	37.0	1,217,000	52.1	24,499,800	44.0
またぎやすい高さの浴槽	1,305,200	20.2	578,800	28.3	1,225,900	18.0	581,500	26.1	1,462,700	20.2	683,800	29.3	11,415,500	20.5
廊下などが車いすで通行可能な幅	1,106,100	17.1	448,600	21.9	1,084,700	15.9	471,300	21.2	1,283,300	17.7	564,300	24.2	9,347,800	16.8
段差のない屋内	1,505,000	23.3	523,800	25.6	1,509,900	22.2	573,700	25.8	1,736,300	24.0	672,900	28.8	12,419,800	22.3
道路から玄関まで車いすで通行可能	1,112,100	17.2	415,900	20.3	1,127,000	16.6	454,600	20.4	1,359,300	18.8	555,200	23.8	7,477,600	13.4

注1) 「高齢者」とは、「65歳以上の世帯員」のことである。

注2) 設備の内訳の合計は、複数回答であるため、「高齢者等のための設備がある」と一致しない。

注3) 「平成25年住宅・土地統計調査 東京都の概要」における「65歳以上の世帯員がいる住宅数」と、本表中の「高齢者がいる主世帯が居住する住宅数」とは、集計対象が異なるため、数値は一致しない。

図7 高齢者がいる主世帯が居住する住宅の高齢者等のための設備状況別割合



注) 「高齢者」は、「65歳以上の世帯員」のことである。